

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

Rotary International District 2740

SEPTEMBER

Vol. 3

2022.9



旧古賀銀行（佐賀市歴史民俗館）

Rotary



ガバナー
月信

2022-2023年度
国際ロータリー第2740地区

ガバナー 上村 春甫

2022－2023年度 国際ロータリーのテーマ



イマジン ロータリー

index

ガバナーメッセージ	2
祐徳稲荷神社への安全祈願参拝	4
米山記念奨学生視察・研修旅行報告	5
国際青少年交換委員会報告	8
インターアクト年次大会報告	9
佐賀ローターアクトクラブ 第1回定例会 地区代表公式訪問例会報告	10
ガバナー公式訪問クラブ報告	11
ロータリーコーディネーターNEWS	13
地区大会のご案内	14
肥前國の風景	裏表紙

表紙説明 | 旧古賀銀行（佐賀市重要文化財 佐賀県遺産）

旧古賀銀行は、かつては九州の五大銀行のひとつに数えられた古賀銀行の本店として、大正2年（1913年）に建てられたものです。

その設計施工は、数々の建築物を手掛けた建築家・舟木右馬之助が行いました。

長崎街道沿いの東隣には、古賀銀行の頭取である古賀善平の居宅・古賀家も建ち、往時の栄華が偲べれます。

表紙・本文帯
「月信」揮毫

牛島 征四郎
(佐賀RC)



「若い力」を思う

2022-2023年度 第2740地区 ガバナー 上村 春甫

今年度が始まって早2か月が過ぎました。ガバナー公式訪問も皆様のご協力のお陰で約4分の3を終えることができ、その中で各クラブの方々と大変有意義な意見交換及び交流を行うことができましたことについては、改めて御礼申し上げたいと思います。また、各々の地区委員会等に係る今年度のキックオフミーティングとも言える委員会等にも数回出席しましたが、そこでの皆様の熱心な活動やロータリーに対する熱い思いにいたく感動しました。

そのような中、各クラブの若手のロータリアンの活躍や若い人に対するロータリアンの思いにとりわけ感ずる所がありましたので、今回はそれについて述べたいと思います。

「地区研修・協議会」や「月信7月号」等で述べました通り、今年度の国際ロータリー会長ジェニファー・ジョーンズ氏は、ロータリーには「不思議な力」があり、その「ロータリーの不思議な力」を発揮させるためには「多様性」(ダイバーシティ/Diversity)「公平さ」(エクイティ/Equity)「包摂」(インクルージョン/Inclusion)を踏まえた会員の積極的参加が必要であり、その会員の積極的参加の鍵のひとつとして「若者」をあげられました。私も、サッカーJ1リーグのサガン鳥栖やバスケットB2リーグの佐賀バルナーズのメディカルサポートをしてきた中で、それらのチームに若い新しい力が加わった時のチームのめざま

しい変貌ぶりをまのあたりにした経験が多くあることから、「若い力」には無限の可能性があり、それを取り込む即ち「包摂」することはロータリーにとって極めて大事なことだと思っていましたので、「若者」即ち「若い力」の積極的参加を促し、「ロータリーの不思議な力」を大きくすべく、今年度の「地区活動及びクラブサポートの重点項目」のひとつを「青少年活動の活性化」としました。

以上のような経緯の中、7月24日の国際青少年交換委員会今年度第1回オリエンテーション、7月27日の佐賀ローターアクトクラブ地区代表公式訪問例会、7月30日のインターアクト年次大会、にそれぞれ出席しました。各会とも感銘を受けることが多くありました。

まず、国際青少年交換委員会今年度第1回オリエンテーションですが、国際青少年交換事業は、ロータリークラブによる支援のもと、15~19歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、世界の一員として必要な自覚を養うことのできるプログラムです。ここ2年間コロナ禍で事業停止となっていましたが、今期は事業を再開できることとなりました。当日は、アウトバウンド(我国から海外へ留学する人)4人の出発を前にした挨拶がありました。皆さん、語学の習得や留学地の文化の理解への意欲や将来の夢を熱く語る志の高い挨拶をされ、実に頼もしく思いました。また、海外で生活するということ

は自国のことをより深く知り、理解する契機にもなります。是非精進を重ね内外ともに通用する人になって頂きたいと思うとともに、今後もこのような志の「若い力」を応援していきたいと思っています。

次に、インターアクト年次大会ですが、インターアクトクラブは12～18歳の中学生・高校生が、地元でのボランティア活動や海外のインターアクト会員（通称「インターアクター」）との交流を通じてロータリーの「超我の奉仕」を学び、行動力を身に付け、また国際感覚を養う活動です。ロータリーは当初から若者の活動支援を行ってきましたが、1962年、ロータリー理事会は「地域や国、世界にまたがる活動のあらゆる次元で、クラブ同士、そして会員同士がつながる」という理念を表す「インターアクト」という名称を承認し、同年、メルボルン・ロータリークラブ（米国フロリダ州）の提唱のもと、インターアクトクラブ第一号となるメルボルン高校インターアクトクラブが誕生し、今日に至っています。本大会では、このようなインターアクトクラブの本旨や歴史にふさわしい、現場での活動を基にした貴重なお話があり心を動かされました。「若い力」の持つみずみずしい感性を活かした活動をますます活性化させていきたいと思っています。

最後に、佐賀ローターアクトクラブ地区代表公式訪問例会ですが、佐賀ローターアクトクラブは暫く活動を休止していたところ、今般皆様のご尽力のお陰で16名の会員を以って再開する運びとなりました。ローターアクトクラブは、18歳以上の人々が集まって、地域社会のリーダーと意見交換をしたり、リーダーシップと専門的なスキルを育みながら、奉仕活動を行うものですが、当日は、そのようなローターアクトクラブの理念を踏まえたしっかりした活動内容の説明が行われ、大変感心しました。今後「若い力」を十二分に発揮した活動がおこなわれるよう支援していきたいと思っています。

このように、将来に期待を持たせる「若い力」を多

く感じる事が出来ました。希望を持って進んでいきたいと思っています。

尚、9月は「ロータリーの友」月間となっています。「ロータリーの友」は、1952（昭和27）年日本のロータリーが東日本と西日本の2地区に分割されることに伴い、これまで共に活動をしてきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有するための機関誌として企画・発行されました。当初は、横書きでスタートしましたが、俳壇・歌壇など横組みでは具合の悪い欄が始まったことから、1972（昭和47）年1月号より、縦書き、横書きを分けて、それぞれに表紙をつける今の形となりました。その後、1979（昭和54）年7月号から1年間の試験期間を経て、1980（昭和55）年7月号からR I公式地域雑誌になっています。「ロータリーの友」は、基本的にはロータリアンのための機関・情報誌で、上に述べたような経緯からも、ロータリーの理念や活動がよく解るように編集されています。「若い力」に係る記事もよく掲載されていますので、これを機により深くお読み頂ければと思います。

【祐徳稲荷神社への安全祈願参拝】 上村ガバナー年度スタートの『鹿島立ち』



左・上村春甫ガバナー 右・山下雄司地区幹事

いよいよ、上村ガバナー年度がスタートし、第2740地区恒例となっていた祐徳稲荷神社にて安全祈願を行う『鹿島立ち』の参拝からガバナー公式訪問が始まりました。

当日は、上村ガバナー、山下地区幹事はじめ、ガバナー事務所スタッフ、さらに花島パストガバナー、秀島第3グループガバナー補佐、鹿島RCから笠原会長、馬場幹事他多数ご参列頂きました。

初めに貴賓室にて鍋島朝寿宮司様からご挨拶をお受けし、内廻廊の153段の階段を上り、壮麗を極める神殿にて安全祈願の祝詞を奏上頂きました。また神前にて神楽舞（扇の舞）をご披露頂き、巫女さんによる扇や鈴をもって舞う様子はとても優雅でした。

下社時の社務所では、鍋島朝倫名誉宮司様から激励のお言葉も頂きました。



第2740地区ガバナー事務所・事務局長 高松 順二（佐賀RC）

米山記念奨学生視察・研修旅行報告

米山記念奨学委員会 委員 **高谷 信一**（長崎出島RC）

2022年7月23日と24日、静岡県三島市にある米山梅吉記念館での研修を主目的として研修旅行を実施いたしました。当地区の米山記念奨学生15名、学友会会長、松田委員長他地区委員5名の総勢21名が参加、感染防止対策に配慮し執り行いました。

初日は本研修旅行のメインである米山梅吉記念館を訪問、学生達は皆、学芸員の説明に聞き入り、記念館所蔵の提示物に見入っていました。改めて米山翁の名前を冠した奨学生であることを誇らしく感じたことでしょう。別途、奨学生のレポートが掲載されますので、そちらもご一読下さい。

その後は熱海泊、2日目に鎌倉、横浜中華街を訪れ日本の歴史と文化に触れ、戻ってまいりました。

今回の研修旅行を通じて米山翁の功績を学び、奨学生同士の親睦をより深めることが出来たということで、その意義と目的を十分に達成できたものと確信しております。



米山記念奨学生視察・研修旅行報告

..... 長崎大学 ^{トウ} 鄧 ^{シタク} 思拓 (長崎東RC)

この度ご招待いただきありがとうございました。

今回の修学旅行は全体的に楽しい旅行と考えております。

1日目は米山梅吉記念館に見学しました。米山梅吉氏生涯の歩みは資料によるさらに勉強になりました。米山記念奨学会の歴史を勉強し、古澤文作氏の功績をたたえ深く感謝の意を表します。

夜の宿泊は熱海温泉ホテルです。素晴らしい景色を眺めながら温泉に浸かる、体も心も癒されました。それ以外、奨学生同士と一緒に手持ち花火を海で楽しみました。

2日目は鎌倉大仏と鶴岡八幡宮を参拝いたしました。「過去」と「未来」、「自然」と「文化」その交点に仏像や神社に勉強になりました。

午後は横浜中華街に散策で、中国人として中華文化は日本にどう形になっている体験しました。

この二日間は本当に楽しかったと思います。委員長と委員の皆様、ガイドさんと運転手さん感謝を申し上げます。

..... 活水女子大学 ^{グエンティ} ホントウ (長崎西RC)

私はコロナで遠いところにずっといけなかったが、今年は米山記念奨学のおかげで、研修旅行は実施することができました。初めて来て、色々なところと新しいことを体験して学べました。有名なお寺や神社、横浜での中華街で綺麗な写真を撮ったり、美味しいものを食べたりして、とても良かったと思います。

私の一番印象は米山梅吉記念館に訪問できたことです。ここで観光しながら、梅吉・日本でのロータリー奨学の創設者の人生と貢献していたことについて聞いていただきました。

また、奨学生たちが一緒に遊べたので、皆が深い結ぶチャンスがありました。誰も面白くて優しいと感じました。とても楽しかったです。

二日間でお世話になりました。本当にありがとうございました。

..... 佐賀大学 ^{コウ} 寇 ^{テキ} 迪 (佐賀北RC)

2022年7月23日、猛暑日が続いてなかで風が穏やかで日差しが明るい日だった。米山ロータリー奨学金の僕たちと地区委員会委の方々が長崎空港にあつまり、そこで二日間の研修旅行が開幕した。あついののは天気なのか、それとも僕たちのあつい気持ちなのか、今思い出し未だわからない。

羽田空港に着いた。天気は明るい晴れだった、僕たちはお天道様に恵まれたかもしれない。お台場で簡単に食事を取って、米山梅吉記念館に向かった。ガイドさんの紹介を聞きながら僕たちは米山梅吉記念館に到着した。

そこで、米山梅吉氏の経緯と功績について学んだ。米山氏は少年時代から夏目漱石氏と名を並ぶ文学素質があり、その後の青年時代はアメリカへ留学し、銀行に関する知識や概念を日本に持ち帰って三十代の当時では有り得ない年齢で三井銀行の社長に就任した。また、米山ロータリー奨学金は米山梅吉の創立ではなく、1952年12月、米山梅吉氏の遺徳を受け継いで、またその功績を記念するため、東京ロータリークラブが米山ロータリー奨学金を設立した。

その後、僕たちは熱海温泉に泊まり、奨学金たちで宴会して楽しい一日した。翌日は鎌倉市内観光、横浜中華街を回った。

バタバタ旅だけど、とても充実で楽しかった。

米山記念奨学生視察・研修旅行報告

..... 長崎外国語大学 ^{アン} ^{ヒウン} **安 喜恩** (諫早北RC)

今年は米山記念奨学生の旅行研修として静岡県へ行きました。羽田空港に到着してからバスに乗ってみんなで昼食を食べ、米山梅吉記念館へ向かいました。記念館では米山梅吉さんが初めて日本にロータリークラブを創設した話から、米山奨学事業が始まった話まで聞くことができました。一番印象に残ったのは、日本でハンセン病が広がった時代にハンセン病の治療のために沖縄と青森を含めた約14ヶ所を巡りながら全力を尽くしたという話でした。特に、記念館の所在地であり、米山梅吉さんが幼児を過ごした「長泉町」にある「長泉小学校」へ文庫や教育費を寄付するなど教育の重要性も強調しました。今回の旅行研修を通して日本のロータリーの由来をより詳しく知ることができとても有益な時間でした。私もみんなの幸せを考える人になろうともう一度考えることができました。



米山梅吉翁像



米山記念奨学生たちと



米山梅吉記念館の前で

..... 佐賀大学 **ダウン ティ ゴック ビック** (佐賀西RC)

7月23、24日に研修旅行として静岡県にある米山梅吉記念館を見学させていただきました。ここではロータリークラブを初めて設立した米山梅吉の人生について詳しく説明され、いろいろ勉強になりました。14歳で中学を退学し上京し、20歳で渡米した米山梅吉はとても勇気のある人だと改めて感じました。見学しながら米山梅吉やロータリークラブについてのクイズを出され、ちゃんと答えられるかどうかを心配しましたが無事に全問正解でした。見学のあとは温泉が有名である熱海市のホテルに泊まり、食事の後に奨学生みんなで海で花火をしました。次の日は浅草や横浜の中華街に歩回りながら食べ歩きをしました。佐賀ではなかなか見れない景色でしたが、人が多すぎて少し疲れてしまいました。3年ぶりの旅行でみんなと盛り上がることができ、とても楽しかったです。

国際青少年交換委員会報告

国際青少年交換委員会 委員長 堀川 二雄（雲仙 諫早南RC）

第1回委員会並びに第1回オリエンテーションの開催報告。

令和4年7月24日（日）午前10時より午後5時まで諫早市のホテルセンリュウにて、上村ガバナー、山下地区幹事をお迎えして、地区委員、スポンサー、ホストクラブ関係者、ホストファミリー、派遣学生（OBS）の総勢23名で開催致しました。

委員会では、8月にインバウンド学生（IBS）を迎える準備、派遣学生の最終書類チェック等10項目の議題を協議し、午後からのオリエンテーションでは、ホストファミリーの心得やホストクラブの役割について説明させて頂きました。今回のオリエンテーションが出国前最終の会合となったOBSの学生からは一年間の留学に対する抱負をスピーチしてもらい、上村ガバナーからも学生に対して激励の挨拶を頂きました。学生の皆さんは素晴らしい夢を持って海外留学へ羽ばたいて行く事でしょう！ロータリーの草の根国際親善大使としての役割を存分に発揮して欲しいと思います。

8月にはIBS6名が来日致します。当地区のロータリアンの皆様に心より感謝申し上げます。



インターアクト年次大会報告

インターアクト委員会 委員長 **長戸 和光** (牛津RC)

令和4年7月30日、長崎市のブリックホールにて、ホスト校を純心女子高等学校（長崎中央RC提唱）、コ・ホスト校を長崎女子高等学校（長崎RC提唱）、海星高等学校（長崎西RC提唱）、長崎女子商業高等学校（長崎南IC提唱）、活水高等学校（長崎出島RC提唱）として、「誰ひとり取り残さない」をテーマにインターアクト年次大会が開催されました。

インターアクト年次大会は、ホスト校持ち回りで毎年1回開催される、地区のインターアクト活動では最も大きな行事となりますが、前2年度は、コロナウイルス感染拡大の影響で中止を余儀なくされており、今回も、7月に入ってからコロナウイルス感染の急拡大のため、中止とせざるを得ないかとも思いましたが、ホスト校の皆様ほか関係者の熱意により、無事に盛大に開催することができました。

大会は、ホスト校のインターアクトクラブ岩永桜果会長の点鐘及び開会宣言で開始され、開会式では、上村春甫ガバナー、田上長崎市長（ビデオメッセージ）、純心女子高等学校の佐古照美校長、長崎中央RCの岡村展成会長ら来賓の方々にご挨拶頂きました。

引き続き、午前中は、「SDGsと教育の未来」をテーマに、NGOユイマール創設者である照屋朋子氏による基調講演が行われました。自ら実践してきたモンゴルのマンホールチルドレンに対する支援活動の体験や、その体験から得られた知見に基づくグローバルな視点からの教育のあり方について話をされており、大会テーマにも即した、極めて有意義な内容でした。

昼食を挟み、ホスト校の吹奏楽部の演奏を映像で鑑賞した後、3つの分科会が開かれました。ジェンダー、環境、コロナ禍でのボランティア活動、の3つのテーマについて、それぞれホスト校やコ・ホスト校が受け持って、参加した高校生間で交流をしながら進められていました。いずれも難しいテーマでしたが、それぞれ参加者の間で一定の結論を導き、成果も上げられているように見受けられました。



そして、閉会式となり、優秀インターアクトクラブについて、クラブ運営、社会奉仕、国際理解の各部門について表彰を行い、次年度ホスト校（清和女子学院高等学校）の挨拶、今西建夫大会実行委員長のお礼の挨拶の後、ホスト校会長の閉会宣言及び点鐘により無事大会が終了しました。

コロナ禍における難しい運営を強いられた大会でしたが、参加人数の制限や生演奏の中止等、規模の縮小を図らざるを得ない面もあったものの、可能な限りの感染対策を行い、無事に成功裏に大会を終えることができました。これもホスト校や提唱クラブを始めとする関係者の皆様の熱意と尽力のおかげであると心より感じております。そして、次年度の年次大会も、無事に盛大に開催されることを祈念し、私からの報告を終わらせて頂きます。



佐賀ローターアクトクラブ 第1回定例会 地区代表公式訪問例会報告

ガバナー月信編集委員 古川麻由美 (佐賀RC)



2022年7月27日(水) 国際ロータリー第2740地区 佐賀ローターアクトクラブの第1回定例会地区代表公式訪問例会が開催され、佐賀ローターアクトクラブ会長三原千怜氏により、19時に記念すべき発足第1回目の開会宣言及び開会点鐘がなされました。

ローターアクトソング黙唱後、三原会長より、ゲスト紹介・メンバー紹介がなされ、佐賀ロータリークラブ福岡桂会長挨拶、国際ロータリー第2740地区上村春甫ガバナー挨拶、地区ローターアクト高松茂信委員長挨拶がなされました。

定例会のメインプログラムでは、地区ローターアクト代表鐘ヶ江紗世氏による卓話、テーマ「ローターアクトについて」のお話では、ローターアクトを解りやすく、かつ、ローターアクトのこれからの活動の楽しみ方や、活動を通じて身につけることができる自己成長への期待、そして繋がりのお機会の大切さを感じさせる内容となっており、ローターアクトにはローターアクトの楽しみ方、ゲスト参加されていました多数のロータリアンの皆様にとっては、フレッシュな若さみなぎるローターアクトの存在意義が、十分に伝わる時間となったことを感じます。

三原千怜会長のクラブテーマ「Blooming」には、「花が咲き誇る」「若々しく美しい」という意味があり、水分や栄養を取り込んで花が咲き誇るように、私たちも、一人一人の中にある新しい種に、アクトの活動を通して得られる様々な考え方や知識を取り込んで、自分だけの花を咲かせてほしい。そして、それぞれの素敵な花を佐賀県や地域に還元して、様々な場面で活躍してほしい。という思いから、このテーマが設定されています。



発足当初より16名のローターアクトから成る佐賀ローターアクトクラブの発足は、上村ガバナーが掲げる「地区活動及びクラブサポートの重点項目」のうちの「2. 青少年活動の活性化」への取組みとなりますが、若いローターアクト一人ひとりの存在があり、我々ロータリアンのそのローターアクトへの積極的参加は、上村ガバナーの意図されるロータリーの発展のために必要不可欠な、良い意味での化学変化となる機会となり、更に、若者のリーダーシップ開発に繋がります。

ロータリアンの皆様、佐賀ローターアクトクラブの活動への積極的ご参加を、お待ちしております。



ガバナー公式訪問クラブ報告



鹿島 R C

7月12日 (火)

会長 笠原 幸輔 幹事 馬場栄一郎

2022-23年度の幕開けとなる最初のガバナー公式訪問例会を、割烹清川にて鹿島・太良 R C 合同で開催させて頂き、上村ガバナー、第3グループ秀島ガバナー補佐、山下地区幹事、高松事務局長、田中地区大会副実行委員長の5名にご来訪いただきました。

例会に先立ち、上村ガバナー及びスタッフの皆様的一年のご活躍とご無事を願い、日本三大稲荷の一つでもある祐徳稲荷神社にて御祈禱を行い、鹿島 R C より花島パストガバナーと会長幹事の3名も同席し、ガバナー事務所からも他4名が出席され、5年振りとなる恒例の「鹿島立ち」も執り行わせていただきました。

懇談会ではクラブの現況及び活動計画書の掲載の仕方や早速の女性会員1名増についてお褒め頂き、ローターアクトの活動への期待と共にサポートの重要性もご指導いただきました。

鹿島の地を起点に一年のスタートを切られたことを鹿島 R C 一同大変嬉しく思い、暑い中のご来訪に心より御礼申し上げます。



太良 R C

7月12日 (火)

会長 田嶋 征光 幹事 川島 力男

7月12日 (火)、上村春甫ガバナー、秀島寛ガバナー補佐、山下雄司地区幹事、高松順二地区事務局長、田中芳樹地区大会副実行委員長をお迎えして、鹿島ロータリークラブ・太良ロータリークラブ合同例会ガバナー公式訪問を開催致しました。今回の合同例会ガバナー公式訪問は、鹿島ロータリークラブのリードで進行して頂き、いつもの太良ロータリークラブの要領とは違い大人数での公式訪問で、緊張感のある例会で新たな経験になりました。

上村春甫ガバナーの卓話を伺って 医療、スポーツ、財界、インターアクト、ローターアクトへの支援など、そのジャンル別の話の引き出しの多さに深く感銘を受けると共に、その多種多様な中身の濃い活動を行いながら、例会出席は100%とお聞きし、少し自分の耳を疑うほどでした。特に少子高齢化社会において「若者を如何に充実して育て上げるかが私達ロータリアンの責務である」と「女性会員を増やし、より柔軟な思考を持つ」を、明確に言われた事を鮮烈に記憶しています。

第3グループ秀島ガバナー補佐は、私ども太良ロータリークラブからの選出とあってロータリアンとしては勿論、地域の代表としても知名度の高い、信頼のおけるリーダーシップを持ち合わせた方です。

地区幹事となられる山下 雄司 地区幹事とも知り合いは古く、2007~2008年度の野口 清ガバナーの年に地区副幹事を勤められ、その年の公式訪問で太良ロータリークラブへ訪問されています。友好と親睦を深めてとても友好的な人柄と伺っておりましたが、お会い出来て親しみを確信しました。

また、同行されました高松地区事務局長・田中地区大会副実行委員長のご出身が太良町と伺い、思いがけず嬉しい地元の話に花が咲きました。



ガバナー公式訪問クラブ報告



佐世保南 R C

7月15日 (金)

会長 宮地 学 幹事 篠原 政幸

2022年7月15日、国際ロータリー2740地区ガバナー上村春甫様、国際ロータリー2740地区第6グループガバナー補佐橋口佳周様、国際ロータリー2740地区 地区幹事山下雄司様、国際ロータリー2740地区 地区副幹事益田裕司様をお迎えして、ガバナー公式訪問例会を開催いたしました。コロナ感染拡大が進行中のなか、医療関係者である上村ガバナーには当クラブを訪問していただいたことを心よりお礼申し上げます。

ガバナーの例会場入場の際は、会員一同拍手でお迎えし、ガバナー着席後全員で食事を始めるという厳かな雰囲気では「ロータリーの不思議な力」についてお話しされ、サッカーJ1サガン鳥栖、バスケットB2リーグの佐賀ブルーネーズのメディカルサポートのお話や大相撲横綱照ノ富士への健康アドバイス等話題豊富なお話を伺い和やかな雰囲気では、全員で最後に記念撮影を行い無事「ガバナー公式訪問」例会を終えたことをご報告いたします。



ロータリー文庫

閲覧方法

ロータリー文庫 閲覧方法

ロータリー文庫ウェブサイトの検索画面から文献(PDF)を閲覧するには、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。パスワードとご利用方法のご案内は、年度初めに各ガバナー事務所を通して各クラブに送付しております。なお、パスワードは毎年度変わります。

お問い合わせ
 ロータリー文庫
 ウェブサイト www.rotary-bunko.gr.jp
 〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15
 黒龍芝公園ビル 3階
 Tel.03-3433-6456 Fax.03-3459-7506

(ロータリーの友 2022年7月号より抜粋)

戦略計画立案のワークショップをやってみましょう

第3地域 ロータリーコーディネーター
滝澤 功治 (神戸須磨RC)



ロータリーを進めていくには戦略計画が重要です。全世界で200を超える国・地域に展開するロータリーは異なる価値観を持つ多様な人々によって構成されています。このようなロータリーの今後の進むべき道筋を示すのがロータリーの戦略計画（行動計画）です。現在のロータリーの戦略計画は「行動計画」として4つの優先事項（①より大きなインパクトをもたらす、②参加者の基盤を広げる、③参加者の積極なかかわりを促す、④適応力を高める）が示されています。

2022年6月26日、第2730地区（鹿児島・宮崎）において、井福直前ガバナーの強いリーダーシップの下、クラブ活性化セミナーが開催されました。地区内から150人を超えるガバナー補佐や各クラブのリーダーが集まり、実際にクラブの戦略計画を作る「戦略計画ワークショップ」が行われました。今回のワークショップは、RIの「戦略計画立案ガイド」に沿って進められました。具体的な手順は次のとおりです。まずは「クラブの健康チェック」でクラブの現状（クラブの強みと弱み）を把握します。次いで「元気なクラブづくりのために／クラブリーダーシッププラン」や「会員の満足度アンケート」で会員のクラブに対する満足度や不満に感じていることを把握し、その結果をもとにクラブの「戦略的課題」は何かを確認します。そしてそのような課題を解決する具体的方法（道筋）を考えることによって、クラブの戦略計画が完成します（以上の資料はすべてMy ROTARYに戦略計画のリソースとしてアップされていますので、これを予めダウンロードして使用します）。第2730地区のワークショップでは、クラブリーダーらがそれぞれのクラブの抱える課題について終始熱心に議論しながら戦略計画の立案に取り組み、素晴らしい成果を挙げました。

終了後、「戦略計画」という名称についての質問がありました。この名称に違和感を覚えるということであれば、かつて使用していた「長期計画」でもよいし、「未来計画」でもよいと思います。大切なことはクラブの現状を把握し、課題を確認してその解決の方向性を示すことです。そして、クラブやそれを取り巻く地域の変化に応じて柔軟に修正することも重要です。

戦略計画を立て、それに沿って行動している地区とクラブは、戦略計画がない地区とクラブよりも柔軟に変化に対応できることが分かっています。また、戦略計画を立案すれば、現状分析を行い、課題を克服して目標達成に向けて長期的に取り組むことが可能となります。さらに、リーダーが年度ごとに交代しても、一貫性をもって地区とクラブを発展させることができます。

あなたのクラブは戦略計画（行動計画）を作っていますか。

ロータリーの公共イメージの重要性について

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター
丸尾 研一 (神戸西神RC)



RIは戦略計画の中に「参加者の基盤を広げる」がありますが、まずはロータリーの認知度を高めなくてはならないと思いますがウルトラCはない。先ず一人ひとりのロータリアンがロータリーの会合に行くときだけでなく、いつもロータリーバッジを身につける、奉仕活動、イベント等でロータリーグッズ（ポロシャツ等）を身につける、車にポリオのステッカーを貼る、ちなみに私の車にはポリオステッカーを貼っていますが、なかなか格好いいですよ、そしてもっと大切なのは、ロータリアン一人ひとりが情報を発信すること、私たちはロータリーについて説明するために、いろいろな情報を入手し、適切に説明できなければなりません、そして私たちがロータリーで経験した感動的な体験について話すことも大切です。普段からコツコツとロータリアンとクラブが、地道に奉仕活動を続け、認知してもらい、好意をもってもらい、そして今後に期待してもらい、この繰り返しでロータリーブランドの向上に繋がるものと確信しております。

第3地域では、ロータリーコーディネーター（RC）、ロータリー財団地域コーディネーター（RRFC）、ロータリー公共イメージコーディネーター（RPIC）とそれぞれ3名の地域コーディネーター補佐で編成されていますので、是非ご活用いただければ幸いです。ロータリーは、世界中の地域社会でロータリーに対する認識を高めるために、歯車とRotaryの文字を並べて表示した新しい公式ロゴを作成しました。もっと多くの人にロータリーの活動を知ってもらうために、どんどんご利用ください、但しサイズとか色は事細かく決まっていますのでMy ROTARY内のブランドリソースセンターを参照してください。私が入会したころは（1989年）「陰徳の美学」を教えられ、最初はどのようにPRしないのか疑問に思っていたのですが、徐々に陰徳の美学に傾倒していった。そもそも広報ということをあまり考えてこなかった気がしますが、あらゆる情報が溢れている今の時代こそ広報が必要ではないでしょうか。是非ロータリアン一人ひとりが強力な広報パーソンであるという自覚をもって、各クラブで広報マインドを高めて奉仕活動の広報にチャレンジしましょう。

2022-23年度

地区大会

2022 11/25^金・26^土・27^日

本会議・記念講演

佐賀市文化会館 11/26^土

国際ロータリー第2740地区の2022-23年度地区大会を上村春甫ガバナーのもと、2022年11月25日(金)26日(土)27日(日)に開催する運びとなりました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るうなか、懇親会の開催は断念せざるを得ませんでしたが、感染症対策に万全を期したうえで、RI会長代理歓迎晩餐会、セミナー、親睦ゴルフ大会は開催させて頂く予定です。会場となる佐賀市文化会館周辺は、2023年春開業となるSAGAアリーナなどサンライズパーク整備工事のため、皆様にご迷惑をおかけすることとなりますが、新たに動き始めた佐賀市のエネルギーをロータリアンの皆様にご覧いただければと存じます。また、ジャーナリストの池上彰氏をお招きし、混迷する世界情勢についてご講演頂きます。ジェニファー・ジョーンズRI会長が掲げた

RIテーマ「イマジン・ロータリー」、上村ガバナーの「『想像』して『創造』しよう・・・ロータリーで未来を!」という地区テーマのもと、佐賀の地で開催し、今回の地区大会が、世界の、地域社会の、より多くの人たちの多様な未来を想像し、創造することへの一助になれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

ガバナー
上村 春甫地区大会実行委員長
織田 徳彌

記念講演

記念講演講師
池上 彰氏

肥前國 の 風景

檜原湿原
〔佐賀県唐津市七山〕

唐津市七山の山あい^かに位置する檜原湿原は「九州の尾瀬」とも呼ばれ、自然環境保全地域特別地区に指定され、保護されています。

標高六〇〇メートル、約十二万平方メートルの美しい湿地帯は珍しい湿原植物の宝庫となっています。

一年を通して四季折々の自然の移ろいが楽しめます。

日本一小さいとして知られているハッチョウトンボはオスだけが赤色で、世界的にも最小の部類に属しています。

サギソウは、シラサギが翼を広げた様に似ていることが和名の由来であると言われています。



編集後記

長月に入り爽やかな虫の音が聞こえてくるようです。

本誌3号(9月号)が皆様の手元に届く頃の9月10日(土)は、例年より早い中秋の名月を迎えますが、終盤に入ったガバナー公式訪問時に各クラブでお世話になった感謝の意、各号に寄稿頂いた地区役員及び各クラブ役員の皆様に感謝の意、そして会員各位のご健勝を檜原湿原に映る名月にお祈り致します。(高)

国際ロータリー第2740地区
ガバナー事務所

〒849-0913 佐賀市兵庫町大字淵4604-1
TEL 0952-37-3138 FAX 0952-37-3139
E-mail ri2740uemura@shunyoukai.jp
URL <https://rotary2740.jp/>

